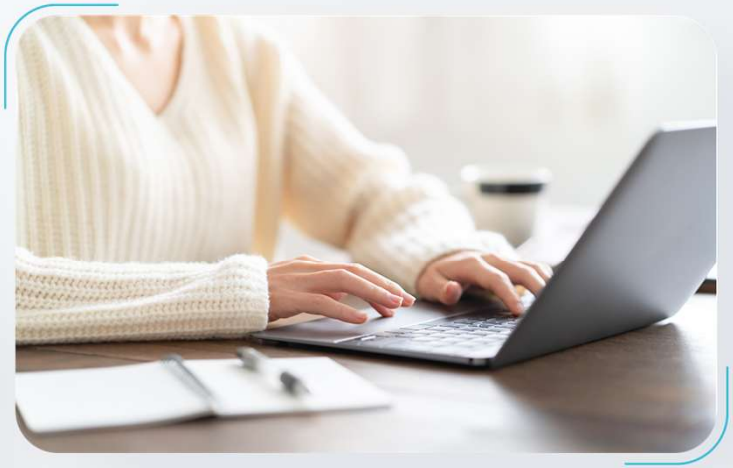
ナスキャリ
NsPace Career

訪問看護業界への転職希望者向け

履歴書・職務経歴書の書き方と面接対策のポイント



© HCSO All rights reserved.

本資料の概要

—— 訪問看護への転職成功に向けて

CONTENTS

- 採用担当者が書類をチェックするポイント
- 履歴書のNG例とGood例文
- 面接でよくある質問
- 面接で好印象を与えるには

本資料は、訪問看護ステーションの採用担当者と訪問看護専門の転職サイトのキャリアアドバイザーにインタビューを行い、訪問看護への転職を成功させるためのポイントをまとめています。

転職活動において、「何から手をつけてよいかわからない」「対策の方法を知りたい」と悩む人も多いかと思います。見通しを立てずに準備を進めるよりも、コツを押さえて対策すると、転職を効率的に進められます。

本資料では、訪問看護ステーションに提出する書類の作成のポイントや面接のコツを具体的に説明しています。例えば、訪問看護ステーションの採用担当者に「面接してみたい」と思わせる履歴書・職務経歴書の書き方を具体的に解説しています。また、面接で採用担当者が確認しているポイント、面接で必ず聞く質問、今までに好印象を受けた面接の事例なども具体的に紹介しています。

これから転職活動を始める方はぜひ参考にしてください。

© HCSO All rights reserved.

採用担当者が履歴書・職務経歴書でまず見るのはどこ?

ナスキャリ NsPace Career

はじめに住所や職歴がチェックされる

職場と自宅との距離

前職の勤務内容、期間

前職の退職理由

訪問看護ステーションの採用担当者がまず確認するポイントのひとつが住所です。訪問看護では、訪問看護ステーションがある地域にお住まいの利用者さまのご自宅に出向いてケアを行います。「オンコール」という夜間に利用者さまからの緊急の電話に対応するため自宅待機し、必要に応じて自宅から利用者さま宅に訪問する体制を取っている訪問看護ステーションが多くあります。そのため、訪問看護ステーションからあまりに遠い地域に住んでいる場合は、シフトを配慮しなければならない可能性があり採用が難しい印象を与えるかもしれません。地域差もありますが、一般的には30分～1時間程度で通勤できる距離がよいとされています。

前職の勤務歴も必ずチェックされる項目です。経験した診療科等から経験や技術をある程度推測できるためです。また、勤務期間や退職理由も重要視されます。基本的には長期間の勤務歴があり、前向きな理由で退職しているほうが好印象を与えられます。一方で、訪問看護の経験がないことでマイナスの印象を持たれるケースはほとんどありません。多くの看護師が未経験から訪問看護の世界に飛び込んで活躍しています。もちろんこれまでの経験はアドバンテージになりますが、未経験の分野に対して素直に学ぶことができる姿勢のほうが重要視されます。

© HCSO All rights reserved.

NGな履歴書・職務経歴書とは?

ナスキャリ NsPace Career

履歴書・職務経歴書には、考え方・人柄・一般常識の有無などが反映される

NG
これまでの経験と志望動機が関連していない

NG
書類作成の基本的なルールが守られていない

NG
丁寧に作成していることが伝わらない

NGな履歴書・職務経歴書の特徴としては、これまでの経験と志望動機が関連していないことが挙げられます。これまででどのような知識・経験を身につけ、何のために退職し、転職先ではこれまでの経験をどう活かしていきたいのかを関連づけて記載することが重要です。

基本的なルールが守られていない履歴書・職務経歴書も好ましくありません。書類の作成や提出方法から、一般常識やマナーの有無が推察されてしまいます。たとえば、書類上の修正テープや二重線などは使わず、最初から書き直すのが原則です。また、書類の提出の際に封筒やクリアホルダーに入れていない場合も、悪い印象を与えてしまう可能性があります。訪問看護では、利用者さまのプライベートな空間でケアを提供する特長があり、マナーは特に重視される傾向があるため、書類作成の段階から注意をしましょう。

丁寧に作成されていることが伝わらないケースも書類選考で不合格になる可能性が高いです。訪問看護では利用者さまやご家族に丁寧に対応することも大切なスキルです。そのため、書類を丁寧に作成できるかどうかは重要な判断材料となります。雑な書き方や、誤字脱字のある履歴書はマイナスに受け取られてしまうでしょう。

© HCSO All rights reserved.

履歴書の志望動機欄で「面接したい」と思わせるポイントは?

ナスキャリ NsPace Career

POINT

01. 要点が伝わるようにする

02. 自分の考えをしっかりまとめる

03. 条件面以外の志望動機をきちんとまとめる

差別化を図りつつ、意欲を端的に表現する

志望動機を作成する際は、要点をわかりやすく伝えることを意識しましょう。例えば、「社会的課題でもある医療的ケア児に注力され、地域から信頼される質の高いケアを提供されている点に魅力を感じました」など、なぜそのステーションでなければならないのかを明確に理解してもらえるようにしましょう。

自分の考えをしっかりと記載することも重要です。抽象的な表現を多用すると、自身の個性を出せず、採用担当者の印象に残りにくいです。例えば、これまでの看護師としての経験や、患者さまとの関わりの中で印象に残った出来事などを、エピソードを盛り込みながらアピールしましょう。訪問看護の経験がなくても、訪問看護業界に関心を持つきっかけとなった体験や、興味・関心を持っていることなどを具体的に書き込むことで、他の志望者との差別化を図れます。

志望動機欄には、求人の条件面以外の志望動機をしっかりと記載することも大切です。勤務条件や待遇面ばかりに触れると、訪問看護への意欲が伝わらない可能性があります。たとえば、「休日が多い点に惹かれたから」「福利厚生が充実しているから」などといった動機だけを伝えるのは控えたほうがよいでしょう。

© HCSO All rights reserved.

履歴書の自己ＰＲのポイント

ナスキャリ
NsPace Career

具体性のある内容で採用担当者の興味を引く

経験やスキルを丁寧にアピールする

身につけている知識・経験が訪問看護でどう役立てられるのかを丁寧に記載する

テンプレートをそのまま使用しない

自分自身にしか書けない内容を盛り込み、担当者の興味を引く

転職後のビジョンを明確にする

採用されて働くことができた場合にやってみたいことを具体的に記載する

自己PRには、まず自身の経験やスキルを訪問看護でどう役立てたいか丁寧に記載しましょう。抽象的な表現ばかりでは採用担当者にあなたの価値が伝わりにくくなります。自身の経験やスキルが転職先でどう活かせるかを理論的にアピールすることが大切です。看護経験が浅い場合は、今までの仕事に対する姿勢や経験を今後どう活かしていきたいのかを表現するとよいでしょう。
また、自己PRを作成する際に、テンプレートをそのまま使用するのはやめましょう。自己PRでは個性を出し、自身の価値を高めたり、担当者の興味を引いたりすることが重要です。テンプレートを使用してしまうとありきたりな文章になってしまい、採用担当者に自身の個性や価値観が伝わりません。自分にしか書けない内容を積極的に盛り込むようにしましょう。資格や受講した研修もひとつの強みになります。得意とすることをどう現場で活かしていけるのか、考えてみましょう。
転職後のビジョンを明確にすることも、自己PR欄を記載する際のポイントです。書類選考を通過して面接に進むためには、自己PRを通して「一緒に働きたい」と思わせる必要があります。就職後にどんなことがしたいのかを具体的に記載し、働く姿をイメージしてもらえるようにしましょう。

© HCSO All rights reserved.

履歴書の本人希望欄のポイント

正直に希望を伝え、そのなかで自分にできることをアピールする

希望欄の内容と実態に矛盾が生じないようにする

希望は隠さず、正直に記載する

働き方を自ら提案する

履歴書の本人希望欄は空欄にすることを避け、オンコールの対応可否、土日祝の勤務可否、入職可能日などを書きましょう。記載する際には以下の点に注意てください。

まず、希望欄の内容と実態に矛盾がないように注意してください。矛盾が発覚すると信用を失う可能性があります。例えば、「オンコールは持病のため一切対応できません」と希望欄に書いてあるが、実際は持病が軽度の腰痛でありオンコールができないほどではない場合などは、悪い印象を持たれるかもしれません。

また、正直に希望を書くことも、本人希望欄を書く時のポイントです。採用に影響することを恐れて隠していると、あとで判明したときに心象が悪くなります。たとえば、介護で土日や夜間の勤務が難しい場合などは、素直に記載しましょう。センシティブな内容で履歴書に書きづらいのであれば、面接などで説明する旨を予め記載しておくのもよいでしょう。

本人希望欄では、どういった働き方であればできるのかを自ら提案してみるのもおすすめです。オンコールや残業の対応が難しい状況でも、できることを積極的にアピールしましょう。「月に2回なら休日出勤ができる」といった内容だけでも伝えておけば、勤務調整を事前に検討してもらえるかもしれません。

© HCSO All rights reserved.

履歴書の例文

志望動機では、自身の経歴に触れつつ、なぜ訪問看護を志すことにしたのか、働き方以外の動機について、考えを明確にしましょう。また、自身の経歴と、どのようなことができるのか触れて差別化を図ると良いです。

志望動機

大学病院で5年間、主に消化器内科の患者さまへ退院調整や家族指導に携わってきました。そうしたなかで、退院後の患者様の生活の質の向上に寄与できる仕事に就きたいと思うようになりました。これまでの病院での経験を活かし、様々な年齢や疾患の患者さまの在宅生活を支えるべく、全力で取り組んでまいりたいと考えています。

自己PR

私の強みは患者さま一人ひとりに合わせた看護ができることです。認知症患者様への支援では、ご家族とコミュニケーションを取りながら患者さまの生活背景、価値観に配慮した対応を行いました。また、ターミナルケアで、患者さまの尊厳を守った看護を実践してきました。今後も、前職での経験を活かし、利用者さまに寄り添ったサポートをしていきたいと考えています。

自分にしか書けない経験談を盛り込み、スキルや就職後のビジョンをアピールしましょう。

矛盾がないよう、希望は正直に伝えたうえで、自分にできることを積極的に提案しましょう。

本人希望欄

小さな子どもがいるため、日曜日と祝日は出勤は基本的に難しい状況にあります。しかし、2週間に1度は保育園を利用できるので、土曜日に出勤することが可能です。平日に関しては、残業やオンコールに対応できます。

© HCSO All rights reserved.

職務経歴書で大切なポイント

POINT

01. ステーションで活かせる技術や経験を記載する

ステーションの運営方針や求人内容などに合わせて、
自身が戦力となれるポイントをアピールする

02. 具体性のある内容を記載する

前職ではどんな仕事に携わり、どんな役割を担っていたかを
具体的に記載する

03. 履歴書と一貫性をもたせる

職務経歴書の記載内容が、履歴書の志望動機や自己PRと
一致するようにする

職務経歴書は履歴書以上に重視されるケースも

職務経歴書は仕事の経歴に焦点を当て、今まで経験した業務内容や培ったスキルをより詳しく伝えるためのものです。しっかりとポイントを抑えて職務経歴書を作成すれば、好印象を与えられる可能性が高まります。

職務経歴書では、まずそのステーションで活かせる技術や経験を記載することを心掛けましょう。訪問看護のニーズは多種多様で、訪問看護ステーションごとに業務内容や求めている人材は異なる場合もあります。そのため、ステーションの運営方針や求人内容にあわせて、これまでに身につけた技術・経験がどのように活かせるのかをアピールするようにしてください。

また、職務経歴書には具体性のある内容を記載することも大切です。抽象的な内容を記載しても、自身の強みを受け取ってもらうことはできません。前職での業務内容や役割を具体的に記載し、何を学び、今後どう役立てていくつもりなのかを記載しましょう。

履歴書の内容と一貫性をもたせることも、職務経歴書を作成する際のポイントです。履歴書と職務経歴書の内容があまりに乖離して齟齬があると、本当のことを書いていないのではないかと信用してもらえない可能性もあるので注意しましょう。

© HCSO All rights reserved.

訪問看護師の面接・何をチェックしている?

まず、面接では身だしなみや行動を必ず確認されます。利用者さまとの信頼関係が重要な訪問看護の仕事では、身だしなみが非常に重要です。髪や爪が伸び切っていないか、服装に清潔感があるかなどはチェックされます。また、面接での行動から働く際の姿勢を推察されることもあります。例えば遅刻したり持ち物を忘れてしまうと、業務でもミスをするのではないかと悪い印象を持たれてしまうでしょう。

面接では一般常識があるかどうかもチェックされます。どのような仕事においても、一般常識があるかどうかは重要な要素です。特に訪問看護はケアマネージャーなどの多職種と関わって仕事をします。そのため、社会人として常識的な行動が取れるかはチェックされるでしょう。例えば、しっかり挨拶ができない、ノックをして面接会場に入れないなどは採用を見送られる可能性があります。

コミュニケーション能力も面接でチェックされているポイントのひとつです。訪問看護では多種多様な利用者さまとご家族と接するため、さまざまな状況でスムーズにコミュニケーションを取れることは重要です。質問に対して正確に回答できているか、わかりやすい声のトーンや速さ、表情で会話できているかなど、会話の内容以外も注意深く見られていることを意識しておきましょう。

© HCSO All rights reserved.

面接で採用担当者が確認したいこと

ナスキャリ NsPace Career

面接の流れ	自己紹介 ……	「過去の実績・経験」を聞く ……	「転職理由・志望動機」を聞く ……	応募者からの質問
採用担当者のチェック項目	マナー・人柄	スキルや強み	ステーションと合うかどうか	やる気

人柄や訪問看護師としての素養

採用担当者は面接の質問のなかで、採用後の課題がないかを確認しています。採用後は一通り研修が行われますが、コミュニケーション能力や人柄といった素養は、あとから変えるのは困難です。そのため、基本的な常識やマナーを身につけていることを示しましょう。また、話をしっかり聞く姿勢やわかりやすい説明力、成長意欲などをアピールして、今後大きく成長できる人材だと認識してもらうことが大切です。

看護で何を大事にしているのか

採用担当者は、志望動機などの質問を投げかけることによって、看護において何を大事にしているのかをチェックしています。訪問看護に対する適性を図るうえで、看護観は非常に重要な要素であるため、どのようなビジョンや信念を抱いているかを直接問われることも少なくありません。そのため、訪問看護の現場で、自分がどう働いていきたいのか、目指したい看護師像を考えておくことが重要です。

本人の認識と実態にギャップがないか

訪問看護の面接では、雇用条件などの質問が行われるなかで、本人の認識と職場の実態にギャップがないか確認されています。新しい職場に対する期待と実際の仕事とのギャップが生じると、せっかく転職しても早期退職に繋がりかねません。そのため、自分のなかで許容できる働き方の範囲をあらかじめ検討しておくことをおすすめします。優先したいことや譲歩できることが明確になっていれば、踏み込んだ質問にも適切に回答できるはずです。

© HCSO All rights reserved.

訪問看護未経験者に面接で聞いていること

訪問看護未経験者の場合、訪問看護を希望している具体的な理由は必ず聞かれます。訪問看護に対する考え方や熱意、人柄などを確認するための質問であり、履歴書の志望理由を深掘りされるケースもあります。自身の思いをアピールするチャンスでもあるので、質問されることを前提に、しっかりと回答を準備したうえで本番に臨むようにしましょう。訪問看護を志す具体的なエピソードなどを用意するといいでしょう。

訪問看護未経験者に対しては、訪問看護・在宅医療に対するイメージや興味を尋ねることがあります。大前提として、訪問看護という仕事を正しく理解できていることが重要です。応募前にしっかり調べて面接に臨みましょう。面接では、実際の仕事内容など踏み込んだ内容を伝えられる場合もあります。予め仕事内容を想定し、自分自身が働いている姿をあらかじめイメージしておきましょう。

未経験であっても、スキルを吸収し、貢献していきたいという前向きな姿勢さが伝わるかも重要です。訪問看護の利用者さまは様々な疾患を抱えています。多くの訪問看護師は、仕事のなかで色々な状況を経験してスキルを磨いていきます。そのため、経験がない疾患領域の利用者さまに関わるのを避けるばかりではなく、積極的に向き合っていけるかも、採用担当者としては気になるポイントです。初めての状況に出会った際も、素直に学ぶ姿勢をアピールできるといいでしょう。

© HCSO All rights reserved.

いまも印象に残る面接事例～好印象編

採用担当者が実際に経験した面接事例

熱心に訪問看護業界について勉強してから面接にいらした方は、とても印象的でした。
NICU出身で、「成人の看護は経験がなく不安もありますが頑張りたい」と素直に話してくれたことで、とても誠実な方だと思いました。
転職時は子育て中でしたが、「ゆくゆくはオンコールや研修にも参加していきたい」と将来的な目標も立てられていました。実際にとても誠実で、長く働いてくれています。

好印象の面接事例

訪問看護業界について理解を深めてから面接に臨むと、採用担当者に訪問看護への興味をアピールできて良い印象を持たれます。未経験の方は、訪問看護の1日の流れ、マナー、よくある手技などを理解しておくと面接の際に質問された場合もスムーズに答えられるでしょう。

働き方や不明点は積極的に採用担当者へ「逆質問」をしましょう。ただし、少し調べればわかることを質問したり、採用担当者が既に話した内容を繰り返し質問したりすると、逆に悪い印象を与えてしまうので注意してください。

また、働き方を自ら提案できると、面接は成功しやすいといえます。例えば、オンコールに対応できるかは採用の重要な判断材料の一つです。そのため、自らオンコールに対応できることをアピールすれば、心強い存在だと思わせることができるでしょう。

© HCSO All rights reserved.

いまも印象に残る面接事例～それはちょっと…編

採用担当者が実際に経験した面接事例

職場見学の際に、訪問看護への強い興味を示されている方がいました。しかし、1人で現場に行くことはないと思っていたり、自転車に乗れないのでバスなどで訪問をしたいと主張したりと、面接を進めるなかで訪問看護について理解が全くできていないと感じました。訪問看護への興味だけが先行していて、勉強不足を感じたため、採用は難しいと判断しました。

“それはちょっと…”な面接事例

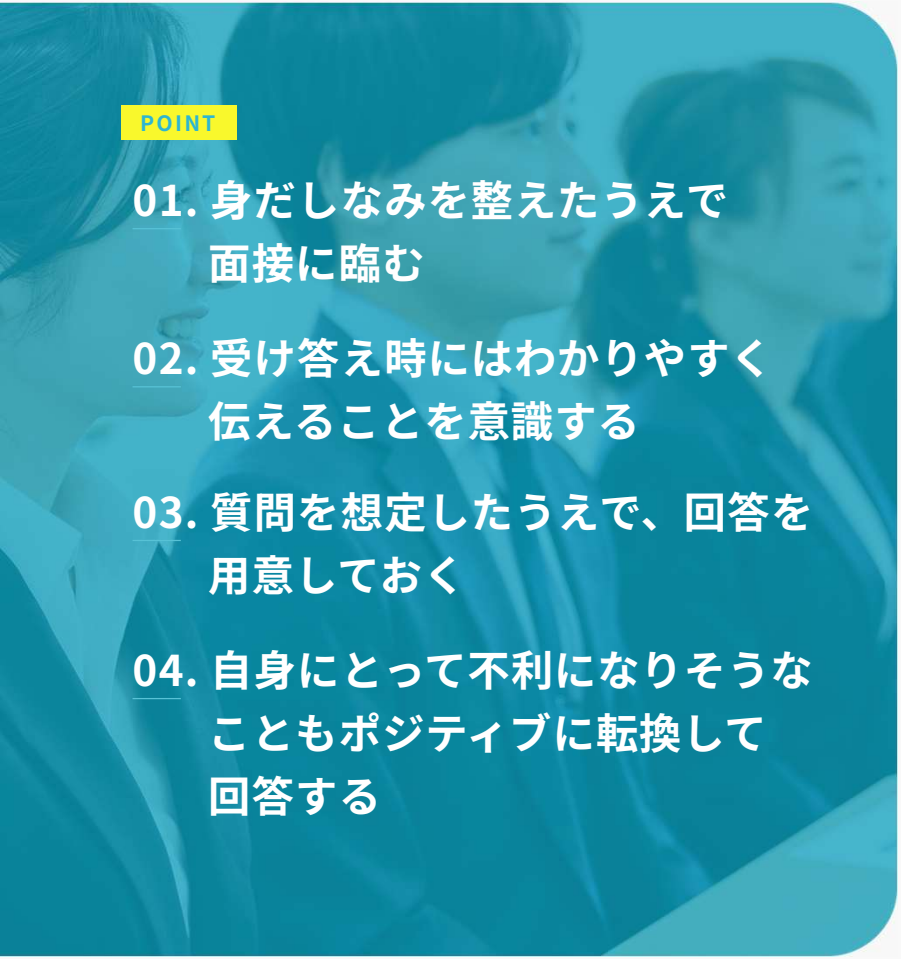
訪問看護へ興味があることは採用担当者としては嬉しいことですが、訪問看護では基本的に1人で訪問することや、この地域では自転車での訪問が基本であることを知らないことで、訪問看護に対して勉強不足に感じられます。興味本位で面接に臨むことにないように、面接前に訪問看護について勉強してイメージを持ち、実際に働けそうか検討してみましょう。

また、挨拶ができないと好印象を持たれることはありません。挨拶は最も基本的なコミュニケーションです。そのため、声が小さかったり、目を合わせなかったりすると評価は下がってしまうでしょう。

質問に対する答えが明確でない場合も、面接での印象は悪くなります。話す内容が論理的ではなく、何を言っているのかわからないような場合は高い評価を得られません。日頃から、要点をまとめて端的に話す練習をしておくことが大切です。

© HCSO All rights reserved.

面接に臨む際に意識するとよい点とポイント



POINT

01. 身だしなみを整えたうえで面接に臨む

02. 受け答え時にはわかりやすく伝えることを意識する

03. 質問を想定したうえで、回答を用意しておく

04. 自身にとって不利になりそうなこともポジティブに転換して回答する

面接は考え方や人間性を理解してもらうための場

面接には、身だしなみを整えたうえで臨むようにしてください。訪問看護では身だしなみは非常に重要な要素です。身だしなみは少しの心がけで誰でも改善することができます。まずは、見た目で好印象を与えることを意識しましょう。

また、円滑なコミュニケーションを意識することも大切です。訪問看護の仕事では、コミュニケーションをとって利用者さまと信頼関係を構築する必要があります。コミュニケーション力は訪問看護で大切なスキルなので、ハキハキとした受け答えや、分かりやすい回答を心掛けるようにしてください。

あらかじめ質問を想定し、回答を用意しておくことも重要です。前述のとおり、訪問看護の面接では頻繁に用いられる質問がいくつかあります。実際の面接でも同じような質問を投げかけられる可能性が高いので、的確に回答できるように準備を進めておきましょう。

最後に、面接ではネガティブなこともポジティブに言い換えて伝えるようにしましょう。転職に関してネガティブな理由を伝えるのか、ポジティブな理由をアピールするのかでは、採用担当者が受け取る印象は大きく変わります。自身にとって不利になるようなことも、前向きに受け止めてもらえるような伝え方を心がけてください。

© HCSO All rights reserved.

訪問看護専門の総合転職支援サイト

ナスキャリ

NsPace Career

＼　訪問看護業界への転職はお任せください　／

https://ns-pace-career.com/

お問い合わせ